

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

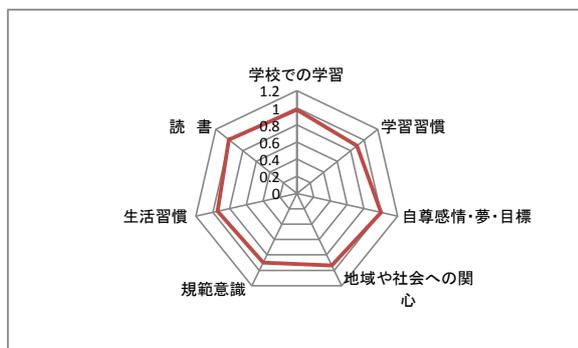
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	平均正答率が全国平均より6ポイント下回っている。話す・聞く能力・書く能力は全国平均並みかやや上回っていたが、読む能力・言語についての知識・理解は、5~7ポイント下回っている。	下回っている
国語B	平均正答率が全国平均より4ポイント下回っている。読む・書く能力は全国平均並みであったが、話す・聞く能力は、全国平均を7ポイント下回っている。	下回っている
算数A	平均正答率が全国平均より5ポイント下回っている。数と計算の領域は全国平均並みであったが、量と測定・図形・数量関係の領域は、5~7ポイント下回っている。	下回っている
算数B	平均正答率が全国平均より7ポイント下回っている。すべての領域で全国平均を下回っていたが、特に図形・数量関係の領域は大きく下回っている。	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

学校での学習では、授業のめあてをつかみ、学習内容を振り返る活動はよく行えているが、話し合い活動によって、自分の考えを深めたり、広げたりすることに苦手意識をもつ児童が多く、話し合い活動の充実が課題である。また、総合的な学習の時間の学習活動の見直しをはじめ、児童が主体的に学習に取り組む力を見つけさせる必要がある。家庭学習については、宿題は確実にしている児童の割合が高いが、計画的な自主学習が十分には行われていない。自分や学校・社会への意識に関しては、自分によいところがあると思う。将来の夢や目標を持っていると答えた児童の割合は全国

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

授業の中で「話し合う活動」を位置付け、児童が自分の意見を筋道立てて話したり、(資料を基に)根拠を明らかにして説明したりすることができる指導に努める。総合的な学習の時間の部会を適宜開き、育てたい資質・能力、概念的知識の系統性、指導計画等についての再度の見直しを行ったり、研修会を位置付けたりして、総合的な学習の時間の授業改善を図る。朝自習の時間を利用しての計算・漢字タイムでは、担任だけでなく管理職や支援加配も加わり個人指導を徹底し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

学力・体力に関する本校児童の実態や指導の方向性について、通信を発行したり、懇談会などで周知したりすることで、保護者との共通理解を図り、家庭学習・家庭生活習慣の改善を図る。